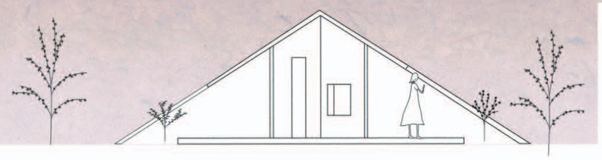
小さな丘の大きな暮らし

郊外住宅地における40坪。与えられた容積いっぱいに建築がつくられ、
家族のためにつくられる排他的なイエの群れ。
世帯あたりの人数は減少し、「家族のための家」はもはや意味を成さない。
家の中だけで住むことをやめて「家族とまわりのための家」をつくる。

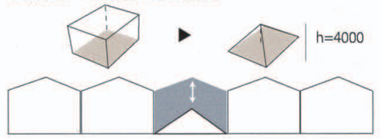
10坪に低く、広く建てられた丘のような家。
家を自然へ、おとなりへ、住宅地へ分け与える。
内部をつくることを外をつくることに還元することで突き抜けた豊かさを生む。
地面と空と人が近づく小さな丘。



section scale 1:200

郊外住宅地における新たな公共性

多摩ニュータウン
□住宅地の密集。
□核家族夫婦の老後の住宅増。
↓
高齢世帯の小規模戸建を提案。

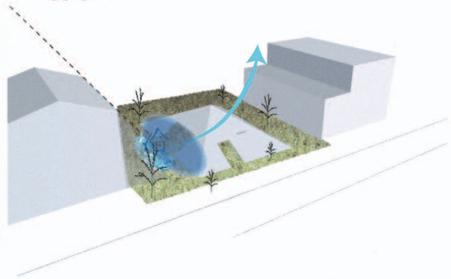


40坪に低く建てる。

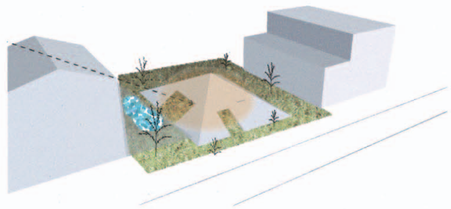
密集住宅地において40坪の床面積をもつ、三角錐の屋根を持つ家。
公園の原っぱのような地続きの屋根は植生され、様々なアクティビティを
喚起し、近隣住民と自然と共に住むくらしを提案する。

環境に応える小さな家

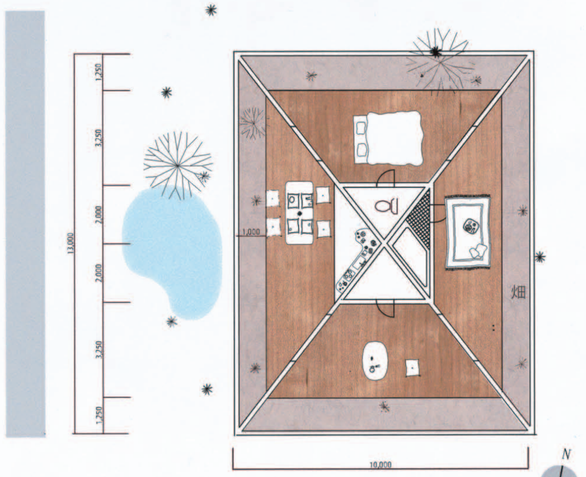
夏季



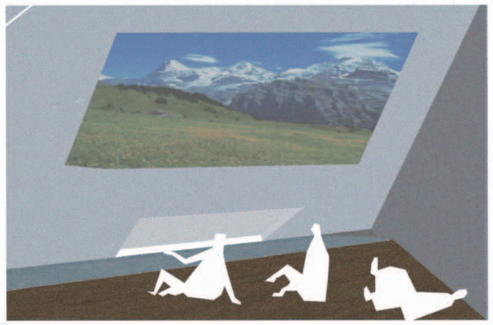
冬期



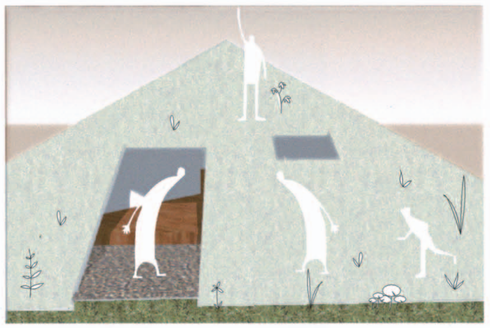
低く、広く建てることで密集住宅地においても環境の一部となった建築ができる。夏は隣棟と落葉高木の葉の影でため池に涼風が流れ、冬は日射熱を小さな家全体に取り込む。自然と限りなく近づく生活は均質な郊外住宅地に何にも代えがたい価値を家族と周囲に分け与える。



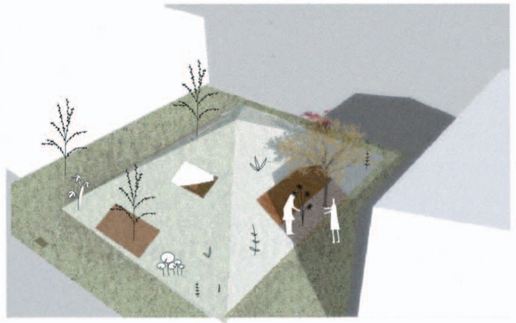
plan +1000 scale 1:150



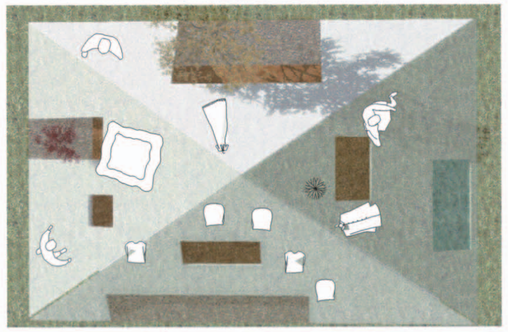
床に転んで上映会。



地続きの屋根は町人の公園。



四隅の畑でおすそ分け。



快晴時は洗濯物が家を飾る。

ご近所を集めて天体観測。